

音楽療法士養成教育を考える ～特にシニア入学者の履修を通して～

佐治 順子

要旨

平成 26 年度より、本学の音楽療法士養成教育は、シニア学生も含む全専攻学生が音楽療法士 2 種資格が取得できることになった。その結果、1) 音楽療法士 2 種資格だけを取得する場合と、各専攻の資格を取得した上に、さらに音楽療法 2 種資格を取得する場合があり、前者の最少卒業単位は 63 単位であった。2) シニア学生は、既習得単位認定で、基礎教養科目や音楽療法 2 種養成科目の一部の単位が軽減される。平成 26 年度シニア入学生では、音楽専攻課程の大学卒者は 45 単位、一般大学卒者は 59 単位、高校卒者は 63 単位で、音楽療法士 2 種資格の取得が可能であり、全員余裕をもって熱心に学んでいることが明らかとなった。

キーワード：音楽療法士 2 種資格, 音楽療法士養成教育, シニア学生, 卒業単位, 音楽療法

1. はじめに

本学では、高等学校卒業（見込含む）の学生、高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）合格者のみならず、高等学校卒業後 3 年以上経過している社会人に対しても、推薦入試、A0 入試、および学力入試の審査を経て入学を許可している。さらに、平成 25 年度からは 50 歳以上の社会人に、そして平成 26 年度からは 40 歳以上の社会人に対しても、入学検定料と入学金の免除、および年代毎の授業料減額を付加して、シニア入学者を受け入れている¹⁾。たとえば、40 歳代の入学者には年間授業料を 4 割減額で、50 歳代の入学者には年間授業料を 5 割減額などである。これは、日本社会の少子化構造による 18 歳人口減少も一因であるが、さらに子育て後や定年を迎えられた方に、大学の門戸を広げるという社会貢献の意味もある。

実際、平成 26 年度本学のシニア入学者は、40 歳代が 3 名と 60 歳代が 1 名であった。その中の 3 名が音楽療法士 2 種資格（以後、音療 2 種資格と表示）の取得を目指して²⁾、音楽療法士養成教育の授業を現役学生と共に履修している。音療 2 種資格取得を希望する 3 名のシニア学生は、これまでの経歴から、入学後の履修科目や卒業のための取得単位が、それぞれ異なっている。それは、既に他大学を卒業した経験をもつ社会人に、既習得単位の認定³⁾があるためである。

現在、音療 2 種資格が取得できるのは、三重県内では本学だけである。本学では生活コミュニケーション学（以後、生活コミ学と表示）・食物栄養学・こども学の三専攻がある。平成 26 年度からは、全専攻学生が、所定の単位を取得すれば音療 2 種資格が取得できるようになった⁴⁾。各専攻によって専門教育科目の必修単位が異なることから⁵⁾、音療 2 種資格取得の卒業単位数も専攻によって異なっている。シニア学生の場合、上記の既習得単位の有無もあって、必

修履修科目や卒業単位数、時間割について、個別のきめ細やかな対応が必要である。そこで、今後さらに多様なニーズを持つ社会人入学者も予想されることから、音療2種資格の取得のために、特にシニア学生のいくつかのケースを例にあげながら、実際の履修科目と単位数などについてまとめることとする。

2. 目的

本研究は、平成26年度入学生の中で、音療2種資格を取得希望の学生が、卒業までにどの履修科目と単位数を取得すればよいのか、特に、経歴の異なるシニア学生の具体例を検討しながら、本学における音楽療法士養成教育の現状とその意義を明らかにすることを目的とする。

3. 方法

3.1. 対象

平成26年度に在籍している学生の中で、音療2種資格の取得を目指す現役学生は、生活福祉学専攻が4名、食物栄養学専攻が1名、こども学専攻が5名（合計10名）である。また、音楽療法関係の授業を履修している一般の授業公開生は、延べ11名である。

3.2. 専攻別履修科目と単位数

本学での最少の卒業単位数は、三専攻とも62単位⁵⁾である。本学で音療2種資格のみを取得して卒業する場合は、基礎教養科目（12単位）と専門教育科目（各専攻の必修10～14単位）、音楽療法士（2種）養成の教育課程科目（以後、音療2種養成科目と表示する。41単位）が必要である（表1）。なお、音療2種養成科目の4分野とは、音楽に関する分野（理論と実技）、音楽療法分野、音楽療法に関連する（教育・福祉・医学・心理）分野、音楽療法実習分野である²⁾。

表1 専攻別音療2種資格のための取得単位数

専攻	卒業単位数（62単位以上）			
	基礎教養科目	専門教育科目	音療2種養成科目	卒業単位数
生活福祉学	12単位 (必修8単位含)	10単位 (必修10単位含)	41単位 (音療2種資格4分野)	63単位
食物栄養学	12単位 (必修8単位含)	12単位 (必修12単位含)	41単位 (音療2種資格4分野)	65単位
こども学	12単位 (必修8単位含)	14単位 (必修14単位含)	41単位 (音療2種資格4分野)	67単位

3.3. 音療2種資格を希望する学生からの聞き取り調査と倫理的配慮

平成26年度入学のシニア入学生（A, B, C氏）および現役学生より、履修科目の聞き取り調査を、後期履修登録後の10月上旬に行った。また本学事務局学生支援課にも確認の問い合わせを

行った。その際、平成 26 年度入学し、音療 2 種資格を目指しているシニア学生は、個人名を出さないが特定される可能性高いことが予測されたため、前もって各人へ、研究の趣旨と紀要論文記載であることを説明した。また、受諾あるいは拒否によって利益あるいは不利益が全くないことを伝え、同意を得て、履修科目についての聞き取り調査を行った。

4. 結果

4.1. シニア入学生の履修単位数

4.1.1. 音楽専攻課程大学を卒業後、音療 2 種資格取得のために入学した場合

既習得単位は、入学前説明会（2 月・3 月）までに出身大学の成績証明書を提出し、教授会の議を経て認可される。生活コミ学専攻にシニア入学した A 氏の場合、基礎教養科目として 14 単位、音療 2 種養成科目として 10 単位が認められた。本学の基礎教養科目の卒業単位は 12 単位であるため、A 氏の基礎教養科目の単位数としては充たされているが、本学の基礎教養科目の必修科目に不足が生じた。したがって、情報科目（必修 2 単位）と総合科目の必修科目（「社会教養 I・II」と「鈴鹿学含む」）の 6 単位を追加履修することになった。

A 氏は、既習得単位として音療 2 種資格の取得単位（41 単位）中、音楽に関する分野 10 単位が認められた。したがって、残りの 4 単位と他の 3 分野の 23 単位、合計 27 単位を追加履修する。最終的に音療 2 種資格のために取得する合計卒業単位数は、45 単位であった。

4.1.2. 音楽専攻課程でない一般大学を卒業後、音療 2 種資格取得のために入学した場合

生活コミ学専攻にシニア入学した B 氏は、A 氏と同様に入学前説明会（2 月・3 月）に出身大学の成績証明書を提出し、教授会の議を経て、既習得単位として基礎教養科目の 8 単位が認可された。しかし、本学の基礎教養科目の卒業要件単位は 12 単位であるので、情報科目（必修 2 単位）と総合科目の必修科目（「社会教養 I・II」と「鈴鹿学含む」）の 6 単位を履修することになった。

B 氏は、生活コミ学専攻の専門教育科目（必修 10 単位）と音療 2 種養成科目 4 分野の全て（41 単位）を履修する。最終的に音療 2 種資格のために取得する合計卒業単位数は、59 単位であった。

4.1.3. 仕事をしている社会人（高校卒）で、音療 2 種資格取得のために入学した場合

生コミ学専攻にシニア入学した C 氏は、基礎教養科目として、外国語科目（必修 2 単位）、情報科目（必修 2 単位）、および総合科目中の必修科目（「社会教養 I、II」と「鈴鹿学」）を含む 8 単位を、履修することになった。

C 氏は、さらに専門教育科目の必修 10 単位と音療 2 種養成科目（41 単位）も履修することとなり、最終的に音療 2 種資格のために取得する合計取得単位数は、63 単位であった（表 2）。

表2 シニア学生が音療2種資格だけを取得して卒業できる単位数

生コミ学 専攻 シニア 学生	卒業要件（62 単位以上）					合計取 得単位 数
	基礎教養科目（12 単位以上）			専門教育 科目	音療 2 種 養成科目	
	外国語科目 必修 2 単位	情報科目 必修 2 単位	総合科目 必修 6 単位			
音楽専攻 大卒 A 氏	(既得 4) 0	必修 2	(既得 10) 必修 6	必修 10	(既得 14) 必修 27	45
一般大卒 B 氏	(既得 2) 0	必修 2	(既得 6) 必修 6	必修 10	必修 41	59
高卒社会 人 C 氏	必修 2	必修 2	必修 6 含 8	必修 10	必修 41	63

4.2. 現役学生の履修単位数

4.2.1. 現役学生が、音療2種資格を取得して、卒業する場合

各専攻で取得できる種々の資格を取得せず、音療2種資格だけ取得して卒業する場合は、表3の通りの単位数が必要である。

表3 各専攻学生が、音療2種資格だけを取得して卒業する場合

専攻	卒業要件単位数（62 単位以上）			
	基礎教養科目	専門教育科目	音療2種養成科目	合計単位数
生活コミ学	12 単位 (必修8含)	必10 単位	41 単位 (音療2種資格4分野)	63
栄養食物学		必12 単位		65
こども学		必14 単位		67

4.2.2. 各専攻で取得できる資格を取得し、かつ音療2種資格を取得して卒業する場合

本学では、学生の希望や意欲に応じて、多様な資格を取得することが可能である(表4)。なお現行の時間割では、生コミ学専攻の生活コミュニケーションコースと、食物栄養学専攻の栄養教諭2種免許状取得の授業の一部は、音療2種資格の授業と同時間帯に設定されているため、短大の2年間で音療2種資格を取得することができない状態である。しかし、その未履修科目を卒業後、科目等履修で追加取得すれば、音療2種資格は取得できる。

生活コミ学専攻で養護教諭2種免許状と音療2種資格を取得して卒業する場合は、合計92単位を取得、食物栄養学専攻で栄養教諭2種免許状・栄養士証と音療2種資格を取得して卒業する場合は116単位を取得、こども学専攻では、幼稚園教諭2種免許状・保育士証と音療2種資格を同時に取得する場合は153単位を取得する必要がある(表5)。

表4 各専攻で取得できる資格

専攻	専攻で取得できる資格	
生活コミュニケーション学	(養護・福祉コース) 養護教諭2種免許状、	社会福祉主事任用資格、日本赤十字社救急法救急員、ワープロ検定1・2級、表計算検定1・2級、ピアヘルパー、食生活アドバイザー2級・3級・基礎、医療事務管理士、放課後児童指導員、レクリエーション・インストラクター、音楽療法士2種
	(生活コミュニケーションコース) 飼主認定、トレーナー認定、ドッグ・アドバイザー認定、プロスタッフ、DDCT	
食物栄養学	栄養教諭2種免許状、栄養士免許証、家庭料理技能検定3・4級、協会認定栄養士実力試験認定証A・認定証B・認定証C	
こども学	幼稚園教諭2種免許状、保育士証、	

表5 各専攻資格と音療2種資格を取得して卒業単位数

各専攻資格	卒業要件単位数 (62単位以上)			
	基礎教養科目	専門教育科目*	音療2種養成科目**	合計単位数
生活コミュニケーション学 ：養護教諭2種	12単位 (必修8含)	51単位 (必修10含)	29単位 (音療2種資格3分野)	92
食物栄養学 ：栄養教諭2種 ・栄養士証		75単位 (必修12含)	29単位 (音療2種資格3分野)	116
こども学 ：幼稚園教諭2種 ・保育士証		118単位 (必修14含)	23単位 (音療2種資格3分野)	153

*専門教育科目は、各専攻のどの資格を取得するかで単位数に大きな開きがある。食物栄養学専攻で栄養士証だけ取得、およびこども学専攻で保育士証だけ取得の場合は、さらに減少する。

**音療2種養成科目4分野は三専攻とも41単位であるが、音楽療法関係に関する分野(12単位)は各専攻の専門教育科目と重複しているため、3分野(29単位)の取得でよい。こども学専攻は音楽に関する分野の実技科目にも重複(6単位)があるため、さらに減少する(23単位)。

4.3. 本学での音楽療法士養成教育

4.3.1. 本学で、平成23年度から始まった音楽療法士養成教育

平成23年度入学の第1期生4名から始まり、平成24年度入学の第2期生3名、平成25年度入学の第3期生3名(見込み)と、合計10名の音楽療法士2種資格取得者を送り出した。

平成25年度の授業公開では、音楽療法関係科目に社会人延べ13名が履修し、その中の1名が平成26年度シニア入学している。今年度は社会人延べ11名が履修している。

平成26年度は、生活コミュニケーション学専攻学生4名(3名のシニア学生含)、食物栄養学専攻1名、こども学専攻5名(合計10名)が、音療2種資格を目指して履修している。

4.3.2. 音療２種の取得のシニア学生の時間割

学生の希望資格取得によって卒業要件単位数が異なる。ここでは、平成 26 年度シニア入学生 3 例の時間割を示す。表中の＊は既習得単位を示し、履修免除科目である。

① 音楽専攻課程大学を卒業後、音療２種資格取得のために入学した場合(表 6)

これは、既習得単位 28 単位、卒業要件単位数 45 単位の A 氏の平成 26 年度時間割である。

表 6－1 1 年次前期

	1	2	3	4	5	6
月			*		*	
火				英会話Ⅰ	総合演習	
水		看護学Ⅰ		障害者福祉論	鈴鹿学	
木	ギター表現	生活情報Ⅰ		学校保健		*
金	音療概論	こころの癒し	生活学概論			
土	(隔週) *		(隔週) *			

表 6－2 1 年次後期

	1	2	3	4	5
月		生活統計	衣生活論		
火					総合演習
水	社会福祉概論		食生活論	社会教養Ⅰ	
木	音療各論Ⅱ		ヘルスカウンセリング		
金		こころの癒し			
土	(隔週) *		(隔週) *		

② 音楽専攻課程でない一般大学を卒業後、音療２種資格取得のために入学した場合(表 7)

これは、既習得単位数 8 単位、卒業要件単位数 54 単位の B 氏の平成 26 年度の時間割である。

表 7－1 1 年次前期

	1	2	3	4	5	6
月	社会学	生活情報Ⅰ	ピアノⅠ	ペット生活論	*	
火	看護実Ⅱ		教育原理		総合演習	
水		看護学Ⅰ	*	障害者福祉論	鈴鹿学	
木	ギター表現	解剖学生理学		学校保健	教育心理学	科学と芸術の間
金	音療概論	こころの癒し	生活学概論		教育と社会	
土	(隔週) 音楽理論		(隔週) 伴奏法			

表 7－2 1 年次後期

	1	2	3	4	5
月	日本国憲法		ピアノⅠ	ペットコミュニケーション	
火		生活情報Ⅱ	看護学Ⅱ	教育相談	総合演習
水	社会福祉概論	養護概説	食生活論	社会教養Ⅰ	
木	音療各論Ⅱ	学校保健演習	ヘルスカウンセリング		
金	道徳教育	こころの癒し	看護学実習Ⅱ		
土	(隔週) 楽式編曲		(隔週) ソルフェージュ		臨床実習

③ 現役で仕事をしている社会人（高校卒）であるが、音療 2 種資格の取得のために入学した場合（表 8）。これは、卒業要件単位数 63 単位の C 氏の平成 26 年度の時間割である。

表 8-1 1 年次前期

	1	2	3	4	5	6
月	社会学	生活情報 I	ピアノ I	ペット生活論		
火				英会話 I	総合演習	
水					鈴鹿学	
木	ギター表現	解剖学生理学				科学と芸術の間
金	音療概論	こころの癒し	生活学概論	発達心理学		
土	(隔週) 音楽理論		(隔週) 伴奏法			

表 8-2 1 年次後期

	1	2	3	4	5
月		生活統計	ピアノ I		
火	児童福祉論		看護学 II	英会話 II	総合演習
水	社会福祉概論		食生活論	社会教養 I	
木	音療各論 II		ヘルスカウンセリング		
金		こころの癒し			
土	(隔週) 楽式編曲		(隔週) ソルフェージュ		

なお表 8 は、4.2.1. 現役学生が音療 2 種資格だけを取得して卒業する場合と同じ卒業単位数（63 単位）であり、生活コミ学専攻の現役学生はほぼ類似した時間割となる。

4.3.3. 音療 2 種資格の授業

社会人学生と現役学生が同時に学ぶ音楽療法の授業は、特に、授業開始前後の行動や授業中の態度などに、現役学生が社会人学生に見習うことが多い。たとえば、必ず授業開始前に着席している。ノートを取り、質問する。授業終了後、楽器の片づけを手伝うなどである。社会人がそれとなく行動で示してくれるため、学生が自発的に改める姿が見られる。一方、社会人学生が演奏中戸惑っていると、それとなく指さして教え合う姿も垣間見られる。

現在、保育園や幼稚園、学校施設、特に公立の施設では、健常な幼児童と共に、知的身体的障がいを持つ幼児童を、同施設に受け入れる「統合保育」⁶⁾や特別支援教育⁷⁾が実施されている。その際、養護教諭・栄養教諭・幼稚園教諭として、施設栄養士・保育士として、どのように寄り添い、関わればよいのか、どのようにコミュニケーションを展開して行けばよいのか、その支援法を学び合うのが、音療 2 種養成科目の授業である。

5. 考察

5.1. シニア入学生の履修単位数について

5.1.1. 音楽専攻課程大学を卒業後、音療 2 種資格取得のため入学をした場合

A 氏は、既習得単位として卒業要件単位（62 単位）の約半数近く（28 単位）が認められたことから、今後、基礎教養科目として必修の 8 単位、専門教育科目として必修の 10 単位、音療 2

種資格単位として 41 単位中 27 単位だけを履修すればよいことになった。したがって、時間割にも余裕をもち、楽しみながら音楽療法の理論と技術を習得している。

5.1.2. 音楽専攻課程でない一般大学を卒業後、音療 2 種資格の取得のため入学をした場合

B 氏は、既習得単位数として基礎教養科目の 8 単位が認められた。したがって、基礎教養科目 (12 単位) は、卒業必修科目の情報科目、「社会教養 I II」、「鈴鹿学」を含む 8 単位だけを履修すればよいが、専門教育科目の必修単位 (10 単位) と音療 2 種資格の取得単位 (41 単位) は、全て履修する必要がある。これまでに音楽実技経験があれば、音療 2 種養成科目はそんなに負担を感じず履修できると考える。B 氏は音楽実技に多少苦勞しているが、熱心に学び続けており、着実に力をつけてきている。その他、養護教諭・福祉コースの授業も履修している。

5.1.3. 仕事をしている社会人(高校卒) であるが、音療 2 種資格取得のために入学した場合

C 氏は、現役学生と同じように、音療 2 種資格取得のためには、63 単位を履修する必要がある。つまり、基礎教養科目として、必修 8 単位を含む 12 単位を履修し、専門教育科目の必修 10 単位と、音療 2 種資格の取得科目 (41 単位) を履修する。C 氏は、仕事をやり繰りしながら、熱心に意欲的に履修している模範的な社会人学生である。

また、シニア入学者は、平成 26 年度から入学手続きの際に「長期履修制度」の利用申請をすれば、2 年間の授業料のままで最長 4 年間授業を履修できる。現在のシニア学生の中には、この制度を利用し、自分の生活スタイルに合わせて無理なく楽しんで学んでいる方もいる。これも、シニア学生ならではの学びの一つであると考ええる。

5.2. 現役学生の履修単位数について

5.2.1. 現役学生が、音療 2 種資格を取得して卒業する場合

各専攻で取得できる種々の資格を取得せず、音療 2 種資格だけ取得して卒業する場合、表 3 で示した通り、全専攻学生は、各専門科目の必修単位数が異なるだけで、他の科目は同じ単位数であった。つまり、生コミ専攻学生が 63 単位、食物栄養学専攻学生が 65 単位、こども学専攻学生が 67 単位であり、いずれの専攻でも卒業単位 62 単位以上を少し上回る単位数であった。したがって、無理なく、余裕をもって音療 2 種資格が取得できると考える。

5.2.2. 各専攻で取得できる資格を取得し、かつ音療 2 種資格を取得して卒業する場合

表 5 で示した通り、各専攻の専門教育科目単位数が、生コミ学専攻が 51 単位、食物栄養学専攻が 75 単位、こども学専攻では 118 単位と大幅に異なる。また、音療 2 種養成科目の 41 単位は、各専門教育科目と重複することから、生活コミ学と食物栄養学専攻が 29 単位に、さらにこども学専攻では、実技科目も重複していることから 23 単位まで減じられた。したがって、こども学専攻学生は、三専攻学生の中で音療 2 種養成科目を最少単位で取得できることになる。

一方、こども学専攻は、専門教育科目が 118 単位と他の専攻よりも圧倒的に多いことから、幼教 2 種免許状と保育士証を取得して卒業する場合、卒業単位が 130 単位取得となる。これは、4 年制大学の 124 単位を既に超過していることになる。したがって、こども学専攻学生が、さらに音療 2 種資格を取得して卒業するためには、153 単位数の取得が必要であることから音楽

療法に強い関心を持ち、意欲的に学び続けたいと資格取得に至らないのが現状である。

実際、音療2種資格の第1期4名と第2期生3名は、全員こども学専攻学生であった。しかも第1期生の1名は現役で公務員試験に合格し、現在公立保育所に就職し、統合保育の現場が増加していると報告している。第2期生の1名は、卒業式で学長賞を頂き、第3期生の1名は、公務員試験に挑戦している。つまり、こども学専攻学生にとって、音療2種資格の取得は確かに忙しく大変であるが、意欲のある、余裕のある学生にとっては、他大学では取得できない資格を取得できることから、大きな満足感を得、誇りをもって卒業後の職場に向かっていることを確認している。

また、こども学の専門科目の必修科目見直しが必須と考える。つまり、学生に多くの科目を提供できることは、本学の特色であり高く評価されることであるが、よりよい授業効果を上げるために、専門教育科目の必修枠を減じ、類似した科目を集約・整理することが望ましいと考える。幸いこども学専攻に専攻科が準備されていることから、削減・集約された科目を専攻科の授業にレベルアップして採り入れ、教授することが意義あると考える。また統合保育や特別支援教育の現場が多くなってきている現状であることから、音楽療法関係の授業1－2科目を各専攻学生の必修科目にすることも、本学の特色を生かしたカリキュラム案と考える。

5.3. 音楽療法士養成教育について

5.3.1. 本学で平成23年度から始まった音楽療法士養成教育の現状

現役学生の音楽療法に対する認知は、大学に入学前説明会や4月の履修オリエンテーションで初めて知る場合が多いと考える。したがって、4月第3週に履修届を出すまでに、音療2種資格を取得するかどうか迷っている学生が多い。とりあえず基礎教養科目であり、音療2種養成科目でもある「こころの癒しと音楽」や「科学と芸術の間」を履修登録していると推測する。

一方、シニア学生や一般社会人の授業公開の履修生は、音楽療法の授業に対するモチベーションが高く、授業態度も抜群に良好である。社会経験が豊かで学びへの関心度の高いシニア学生と同じ授業を受ける現役学生にとっては、現役学生だけの授業にはない有意義な時間を共有していると考ええる。また、熱心に受講する社会人の存在は、担当教員にとっても使用教材や指導方法の再考にも繋がり、程よい緊張感と授業のレベルアップに有効な刺激になっていると考える。

5.3.2. 音療2種取得シニア学生の時間割について

社会人の中で、音楽療法に関心はあるが、入学して資格取得をすべきかどうか迷っている方のために、ご参考になればと思い、表6－8に、平成26年度のシニア学生の時間割例を提示した。偶然であるが、楽しんで履修しているA氏の時間割と、できるだけ1年次で取得しておこうと積極的に履修しているB・C氏の時間割を示すことが出来たと考える。なお、これは各年度の時間割や担当教員によっても変動することを、そして各学生の諸事情により、さらに多様な組み合わせもあるであろうことを、ご理解いただきたい。疑問に思ったときはいつでも、そして、入学前説明会や入学後の履修登録を提出する前には是非、音楽療法の担当教員へ、直接相

談することをお薦めする。

5.3.3. 音楽療2種資格の授業の現状と課題

音楽療法関係の授業には、現役学生に、数名の社会人学生が加わっているため、現役学生の学びの環境に好影響を与えている。そして授業中に、積極的かつ和やかな雰囲気が保たれることが多い、また、音楽療法の授業では、健常児の発達や、障害のある児童、虐待・登校拒否に悩む児童、家庭生活の親子のありかたについても、実際の症例を通して具体的な関わり方を指導していることから、仮に音楽療2種資格を取得しなかったとしても、幼児や児童と接する職業人の知識として、履修しておくことは有益であると考ええる。

現役学生は入学してから音楽療2種資格に興味を持ち、授業を履修するため、シニア学生とは授業に対する温度差が大きく異なる。つまり、現役学生は1年次前期に音楽療法の授業を履修するが、途中で履修が継続せず脱落してしまうことが課題である。音楽療法士養成教育は、三重県内で本学だけで開講されている授業であり、統合保育や特別支援教育とも密接に関係していることから、今後は、総合的な人間教育学として履修できる時間割を整えることが重要である。

6. 結論

本学で、音楽療法士2種資格を取得するためには、音楽療法士2種資格だけを取得して卒業する場合と、各専攻の資格を取得した上にさらに音楽療法2種資格を取得して卒業する場合がある。前者は、生コミ学専攻入学生で、最少の63単位で取得できる。後者は、各専攻の取得資格によって異なり、92単位～152単位の取得が必要である。

シニア入学者は、既習得単位認定で、基礎教養科目や音楽療2種養成科目の一部の取得単位が軽減される。したがって、時間的に余裕をもって、楽しみながら有意義な学びを得ていることが確認された。

引用文献

- 1) 平成26年度(2014年度) 鈴鹿短期大学 HP, 入試情報
<http://www.suzuka-jc.ac.jp/03admission/senior.html> (2014年10月29日アクセス)
- 2) 全国音楽療法士養成協議会規程「音楽療法士(1種又は2種)養成に関する規則」養成所様式1号4号 http://jecmt.jp/documents/200_docu/200-7.html (2014年10月29日アクセス)
- 3) 平成26年度(2014年度) 学生便覧, 鈴鹿短期大学学則、第5章教育課程等第27条, 80
- 4) 佐治順子(2014) 音楽療法教育を考えるー3年間の学生指導を通してー『鈴鹿短期大学紀要第34号』, 69-83.
- 5) 平成26年度(2014年度) 学生便覧, 鈴鹿短期大学, 14-47.
- 6) 園山繁樹(1994): 障害児の統合保育をめぐる課題, 特殊教育学研究 32(3), 57-68.

7) 文部科学省：「特別支援教育の推進について」平成19年4月19 文科初第125号
<http://www.mext.go.jp> (2014年10月29日アクセス).

執筆者の所属と連絡先

所属：鈴鹿短期大学 Email: sajin@suzuka-jc.ac.jp

Thinking Music Therapy Education for Music Therapist through teaching Senior Students at Suzuka Junior College

Nobuko Saji

Abstract

Since 2014, music therapy training education in Suzuka Junior College admits students in all majors and senior students to register for the course to acquire class-2 music therapy qualification. As a result, (1) there were students who only acquired music therapy qualification, and students who acquired music therapy qualification in addition to acquisition of the qualification in their own major. Minimum credits for the former was 63. (2) Under the regulation concerned with approved credits acquired prior to admission, senior students will receive a reduction of credits on basic cultural subject and class-2 music therapy training course. For senior students who enrolled 2014, the necessary number of credits to obtain class-2 music therapy qualification were, 45 for the university graduates who majored music, 59 for the general university graduates and 63 for the high-school graduates.

This research has confirmed that the acquisition of music therapy qualification is capable for all students and those who attended music therapy course enjoyed learning and worked enthusiastically.

Key Words: class-2 music therapy qualification, music therapy training education, senior student, graduation credit, music therapy